



「失言」の数々、
真意・分析は？
こんどう 彰治(政新クラブ)



問／令和5年7月に市内私立高校2校に関し市長が発言された内容は失言であった。失言の特徴や心理は理解しているのか。特徴は、思いつき、他人を見下す、空気が読めない。心理は、正直に答えただけ、教えてあげただけ、悪気はない。失言の真意や分析はどうか。

答／弁解の余地がなく、心から反省している。

問／今後の失言に対しての責任の取り方は。

答／誠心誠意職務に精進する。

儀明川ダムや山麓線四車線化の見通しは

問／県が起債許可団体に移行した。県事業である儀明川ダムや山麓線四車線化の今後の見通しについて確認したい。

答／鶴川ダムに引き続き、儀明川ダムも本体工事が着手に向け進められていると聞いている。山麓線四車線化は、交通量や交通渋滞の発生状況を確認しながら、事業化に向け検討していくとのことである。

上越妙高駅開業10周年記念イベントは

問／将来に繋がる地域の発展や、活性化に期したイベントにすべきではないか。

答／コロナ収束後の企業進出の活性化やオフィス設置の動向を注視し、来訪者や市民ニーズを捉えながら、さらなる利用を促す機会とするための取り組みをしたい。



高騰する冬の光熱費を
支援していこう！
宮川 大樹(みらい)



問／エネルギー価格高騰支援金の申請受付が開されたが、反響はどうか。

答／エネルギー価格高騰の影響を受ける事業者支援として、効果的な取り組みとなっている。

問／冬期のエネルギー価格高騰支援対策は。

答／国や県の動向を注視し、事業活動への影響を把握しながら、臨機な対応を検討していく。

問／平成28年より電力の小売が全面自由化となったが、当市並びに指定管理施設での電気事業者の選定基準はどうか。

答／総合的に勘案した上で、その都度、判断してきたが、従前よりも高い価格で電力調達せざるを得ない事案が発生しているため、当面既存の契約先による電力調達が適当と判断した。

問／名立区不動地域で小水力発電の導入に向けて市民団体が設立された。市としても支援すべきと考えるがどうか。

答／関係する地域団体や事業者と情報共有し、事業化に向けて後押しする施策を研究していく。

友好都市等との相互交流再開を

問／新型コロナウイルス感染症の収束を機に、姉妹・友好都市等との相互交流を再開すべきではないか。

答／市民同士の交流を含め、様々な手法を通じて、相互の交流を積み重ねていく。



長野県との交流拡大に
向けて
池田 尚江(創風)



問／直江津港の活用や、観光などの分野での交流人口の増加に向け、県都である長野市に上越事務所を設置する考えはないか。

答／両県は古くから人や物が行き交う中で、連綿と多様な交流や繋がりがあり、極めて深い関係にあると捉えている。上越事務所

の設置については、SNSを通じた情報収集が主流であることなどを勘案する中で、設置の必要性は感じていないが、引き続き、長野県との交流拡大に向けた有効な手法について研究を進めていきたい。

大規模火災発生時の情報伝達は

問／アメリカ・ハワイ州マウイ島で大規模火災が発生した。猛暑と少雨が続く中、当市においても大規模火災の発生が懸念されるが、市民への情報伝達はどのように行われるか。

答／令和5年8月には市内で4件の芝火災と2件の林野火災が発生し、強風が重なれば大規模な火災の危険性があったものと認識している。延焼拡大の恐れがある場合、対象地域へは防災行政無線をはじめ様々な情報伝達手段を用いて、速やかに市から避難指示を発令する。引き続き、市民の避難行動と防火意識の向上を図っていく。



上越

長野